

1. 【個人の姿勢】子どもを一人の人間として尊重する

資料 2 - 5

●対等な関係性

子どもを「守られる対象」としてだけでなく、一人の人間として対等に接し、その意見や行動を尊重する。

●「聴く」から始める

子どもの声を“聞く”のではなく“聴く”。すぐに否定や評価、答え出しをせず、「なぜそう考えたのか」その背景を想像し、一度そのまま受け止めて、尊重する。必要ならば、大人が、考えを押し付けることなく、一緒に選択肢を考えていく。

●違いを認める

子どもに「みんなと同じ」を求めず、一人ひとりの個性や違いを理解する。

●大人の背中を見せる

大人が権利を尊重する姿勢を見せる。例えば、大人も間違えたときは謝って、失敗を「成長の機会」として肯定的に捉えられるような姿で手本となる。

●相互の支え合い

助ける/助けられるという固定的な関係性ではなく、状況によって互いに支え合える存在であることの自己知覚を促す。

2. 【学びと対話】権利を「自分ごと」にする機会を作る

●共に学ぶ場の創出

子どもだけでなく、大人も「子どもの権利」を日常に落とし込むための学習・研修機会を持つ。

●権利の使い方の習得

大人も子どもも、権利は「みんなが安全で幸せに生きるためのルール」であることを知り、自分と相手の両方の権利を大切にす対話の方法を学ぶ。

●自らが気付ける支援

子ども自身が「自分は今、困っているんだ」と気付けるよう、日常から「どう思っ

1/29 事前アンケート【大人が大切にすべき事、大人ができること】回答まとめ
た？」と問いかけ、感覚を大切にする。

3. 【環境・仕組み】安心して声を上げられる場所を整える

●選択できる環境づくり

大人の都合ではなく、子どもの関心に基づいた生活や学びを広く選択できる環境を整える。

●相談しやすい環境

子どもが「相談してもいいんだ」と思える雰囲気作りと、オンラインを含む「わかりやすい」「相談しやすい」複数の相談先の整備及び明示。

●形式に終わらせない参画

子ども参加型の会議や活動を単なるイベントで終わらせず、実効性のあるものにする。

4. 【地域・行政の連携】多様な主体で子どもを支える

●大人の心の余裕を確保

行政や地域が中心となり、大人がつながり、学べる場を作る。そうして、大人が安心感と心の余裕を持つことで、子どもの声を丁寧に聴く土壌を育む。

●特性に応じたアプローチ

発達の特性により、相手の気持ちを想像することが難しい子どもや保護者に対し、地域社会全体での支援のあり方を検討する。

●役割の分担と連携

様々な立場の大人が、それぞれの役割を果たせるよう連携及び協力する。

家庭) 子どもが安心できる家庭環境づくりと、発達に応じた支援。

学校) 子どもの主体的な学びへの支援。

地域) 子どもにとって安心安全な環境づくりと、世代を超えた人との交流。不公正な扱いを知ったときに「地域の大人」として行動する。

行政) 地域の実情に応じた施策の実施と、各主体の連携強化。

地域と行政が連携し、支援者の声も反映しながら施策を継続的に育てる。